

突然訪れた家族や知人の死、崩れる家、燃える町。避難所生活を余儀なくされ、仕事場もない。先のことは一切見えな



阪神大震災復興
市民まちづくり支援ネットワーク

世話人

小林郁雄氏

「ガチガチの焼け跡にも芽が出る。種を蒔くおぼさんは「花が咲いたら見に来て」と遠く離れた避難地にいる元隣人に伝え、咲けば少しずつ人が集まり「早く復興が始まってほしい」と言っている。この町がいい」と言い合った「阪神大震災復興・市民まちづくり支援

「本当は、「町を捨てていくんだよ」と言いたかった」。まちづくり有限会社「きんもくせい」の天川佳美代表は言う。この運動「ガレキに花を咲

かせましよう」の発起人だ。「でも悲しいことが一気に起こったこの土地をもう見たくない人だっている。だから花という温かなメッセージで、この土地をもう一度振り返るきっかけ作りがしたかった」。

しかし、「この運動で

帰ってきた人は決して多くはない。町を離れて4年もすれば、人々は帰ってこない」と小林さん。復興計画を神戸市が策定

したのは、被災年の6月が得をするのか損するの末と早かったが、「行政は市民が何を必要としているのかわからない。市民も行政が何をどこまで支援してくれるのかが見えな。揉めるうちに時間がすぎ、住人が半分ほどもいなくなってしまうた

「弱者」の声が届く、まちづくりを

対話で作る、災害に強い町

町も少なくなかった」興への道はたやすくなかったようだ。

「まちづくり団体が被災前になかった地区では話し合っただけで調整する習慣がなく、揉め事があつた地区が中心だった。誰が、「自分たちで声を挙

〈プロフィール〉

こばやし・いくお 1944年生まれ、名古屋市出身。都市・計画・設計研究所を経て86年「コー・プラン」を設立。震災後、阪神大震災復興市民まちづくり支援ネットワーク世話人としてまちづくりを支援し、現在も、まちづくりの相談役として活躍する傍ら、人と防災未来センター上級研究員、神戸山手大学教授などで勤務。04年には兵庫地域政策研究機構より「21世紀のまちづくり賞」を受賞している。

か「ぐらいの気軽なことも目指すべきだ」

でもいい。相談できるようにしておかないと。災害があつたときに隣近所と助け合えますか? 行政、有力者、デベロッパー:声の大きい人の意見だけが通るのが本当に住みたい町ですか? まちづくりの法制度はようやく変わりつつあり、自助努力するところに支援がくるようなシステムに変わってきた。全国各地でまちづくりを始め、災害に強いコミュニティ

「弱者」の声が届かない町が、人の命を奪ったといっている言ひすぎか。

紙面の都合により「この人に聞く」は休載しました。

まちづくり

住の備えは万全か

第5回「復興と新たなまちづくりの時代に」